扁桃体を刺激する音楽はプロスペクト効果を修正（抑制あるいは促進）するか？

東京福祉大学　保原伸弘

行動経済学にはプロスペクト効果、すなわち、一度まとまった報酬を手にすると、それを失うことを危惧し、たとえ期待値からは選択するのが望ましい選択肢に直面しても、その行動の選択を避ける傾向があるという議論がある。Shiv et al.(2005)は脳に損傷のある患者と健常者の双方に簡単な投資選択ゲームを行わせ、両者の結果を比較することで、このプロスペクト効果は不安の感情と深く関係のあるとされる偏桃体と呼ばれる脳の部位が深く関連していることを主張する。また合わせて、扁桃体が損傷した患者ほどプロスペクト効果が修正されリスクに対する保守的な態度が修正され、投資が促進された結果を導いた。一方、音楽心理学では偏桃体を強く刺激する音楽としてSad（グリーグ；ソルヴェイグの子守唄など）を分類する。本研究ではこのSadに分類された音楽を背景にして、Shiv et al.(2005)と同様の投資選択ゲームを行った場合、Shiv et al.(2005)と同様、プロスペクト効果や投資選択行動に差が生じうるかを検証するものである。それによりShiv et al.(2005)のように脳に損傷のある患者を被験者として用いなくても経済行動（プロスペクト効果）と脳の部位との関係が可能となることを示し、新たな行動経済学や音楽心理学の議論の発展の道を探ろうとするものである。